

当協会の主要活動内容

② 都市環境エネルギーシンポジウム

開催日: 令和7年9月1日(月)大阪ガスビルディング 南館 3階ホール

CO₂排出量の増加に伴い、近年異常気象などの気候変動影響が地球規模で増大しており、我が国では、台風や豪雨による大災害が頻繁に発生する事態となっている。地球が持続可能な成長をしていくためには、社会全体を「脱炭素化」へ大胆かつ速やかに転換していくことが不可欠である。このような問題意識のもとに、本年も、9月1日(月)13:30~17:00に「大阪・関西万博後の臨海部BCPとカーボンニュートラル構想」をテーマとした第32回都市環境エネルギーシンポジウムを、大阪ガスビルディング 南館3階ホールにて下記の通り開催した。講師・協会関係者を入れて141名と大盛況で、シンポジウムの内容・パネルディスカッションの質疑応答も含めて、大変興味深い内容となった。

基調講演

- 「日本のまちづくりGX ネットゼロエネルギー街の実現」
国土交通省 大臣官房技術審議官(都市局) 服部 卓也
- 「大阪のまちづくりランドデザイン」
大阪府・大阪市 大阪都市計画局長 尾花 英次郎
- 「臨海部のカーボンニュートラルな街づくり」
大阪大学 大学院工学研究科 環境エネルギー工学専攻 教授 下田 吉之
- 「Daigasグループのカーボンニュートラル化戦略とBCDへの取り組み」
大阪ガス(株) 代表取締役 副社長執行役員 田坂 隆之



基調講演

パネルディスカッション

- 【コーディネーター】
尾島 俊雄 (早稲田大学名誉教授 (当協会理事長))
- 【パネリスト】
小川 博之 (国土交通省 都市局 市街地整備課長)
尾花 英次郎 (大阪府・大阪市 大阪都市計画局長)
下田 吉之 (大阪大学 大学院工学研究科 教授)
田坂 隆之 (大阪ガス(株) 代表取締役 副社長執行役員)



パネルディスカッション

③ 都市環境エネルギー技術研修会

開催日: 令和7年12月11日(木)~12月12日(金) 中央区立環境情報センター 研修室 + WEB配信

技術委員会では、会員並びに一般の皆様へ技術・知見の向上を目的として、毎年「都市環境エネルギー技術研修会」を開催している。今年度は、リアルとWEBのハイブリッド講演とYouTubeによる録画配信により、【エネルギー管理による脱炭素化社会】~熱・電力ネットワークで創る持続可能な未来~ をテーマとして、研修会を実施した。

基調講演

- 「まちづくりGXに向けた国土交通省の取り組みについて」
国土交通省 都市局 市街地整備課 拠点整備事業推進官 犬飼 武

個別講演

- 「水素社会を見据えた分散型電源と統合エネルギー管理による広域的省CO₂化プロジェクト」
(株)安藤・間技術研究所 先端技術開発部 次世代エネルギーGr グループ長 中里 壮一
- 「地域新電力における自律分散型エネルギーモデル構築に向けた取組
~ローカルエナジー(鳥取県米子市)の取組~」
ローカルエナジー(株) COO 上保 裕典
- 「多拠点一括エネルギーサービス(JFE-METS®)
~ハウス食品グループにおけるエネルギー管理~」
JFEエンジニアリング(株) 電力ビジネス事業部 エネルギーサービス事業推進部 計画グループマネージャー 太田 涼
- 「DHCの搬送動力削減」
(株)クラブティア 東京本社 技術本部 副本部長 佐藤 文秋
- 「温故創新の森NOVARE
次世代まちづくりを見据えた多棟連携のエネルギー管理」
清水建設(株) 設計本部 設備設計部2部 主任 重盛 光

一般社団法人都市環境エネルギー協会

令和7年度 活動報告

当協会は、脱炭素・省エネルギー型で災害に強い都市社会の要請に応えるべく、努力と貢献を続けて参りました。電力・ガスに次ぐ、環境にやさしいゼロエミッションの熱エネルギーの供給と災害時にも機能する自立分散電源の確保を可能にする、エネルギー的利用の普及推進をめざす産・学・官の団体として、当協会の役割がますます重要になっています。本報告は、当協会の1年間の活動内容を紹介するものです。

活動方針

- ① 未利用エネルギー・水素等の有効活用を含めた賢い熱の活用等によるカーボンニュートラルの実現への貢献
- ② エネルギー供給のレジリエンスを高めることによる災害に強い都市の実現への貢献
- ③ ①,②の貢献による「ウェルビーイング/高い生活の質」が実感できる都市・地域の実現への貢献

当年度は第7次活動計画(2025~2027年度)の初年度として、ハイブリッド形式を併用しながら活発な協会運営を行いました。通常総会や賞詞交換会が盛大に開催されたほか、大阪・関西万博に合わせて大阪で「第32回都市環境エネルギーシンポジウム」を実施し、141名の参加を得る盛況となりました。

事業の柱として、自然災害への備えであるBCD(地区熱供給による事業継続計画)と脱炭素化を重点課題に据え、国交省や主要自治体の参画を得て事業化を見据えた具体的な提言を報告書にまとめました。また、技術手引書の普及や英語版HPを通じた海外交流も進展しています。次年度以降は、本計画に基づきこれらの取り組みをさらに深化させてまいります。

令和7年度活動概要

活動事業種別

実施内容

自主研究事業

研究企画委員会

自主研究の充実に向けており、大学研究者を核に自主研究WG活動を実施し、研究者等間の研究紹介や共通研究課題への取り組みを行った。10月には、調査研究成果普及発表会を107名の参加で、実施した。

技術活用事業

都市環境エネルギー技術研修会

12月11日に【エネルギー管理による脱炭素化社会】~熱・電力ネットワークで創る持続可能な未来~をテーマとして、144名の参加で、会場リアル参加、Web参加、録画配信の3方法で実施した。(施設見学:温故創新の森NOVARE)

技術手引書改訂版配布・最新版への見直し

平成25年11月発行(改定第4版)は、現在も販売継続中。累計販売部数637部(含贈呈)改定第4版は、発行後10年以上経過のため改定第5版として最新の情報に見直し作業中。改定第5版は、自治体の方にも興味をもっていただける工夫を織り込む一方、最新情報を集約し第1編「地域冷暖房とは」のみ別冊で来年度発行予定。

導入支援事業

熱の重要性を踏まえた国・主要行政への提言

BCD事業化委員会に、国交省都市局・神戸市・横浜市・名古屋市・中央区などの担当者にご参加いただき、意見交換を行った。

自治体への導入支援

2月に開催した、都市環境エネルギー技術研修会に、自治体より46名の参加をいただいた。

他団体との意見交換会

コージェネ財団とは将来の脱炭素社会に向けて、自立分散型電源の普及促進、コージェネの活用と熱の有効利用の観点から、同じ方向性を向いて活動しており、定期的な情報交換を継続して実施している。日本熱供給事業協会とも、熱供給事業の普及促進・熱の有効利用の観点から相通ずるものがあり、タイムリーに情報交換している。

普及啓発事業

都市環境エネルギーシンポジウム

9月1日(月)「大阪・関西万博後の臨海部BCPとカーボンニュートラル構想」をテーマとした第32回都市環境エネルギーシンポジウムを大阪ガスビルディング 南館3階ホールにて開催した。



一般社団法人都市環境エネルギー協会

〒104-0031 東京都中央区京橋2丁目5-21 京橋NSビル6F

JAPAN DISTRICT HEATING & COOLING ASSOCIATION

TEL : 03-5524-1196

FAX : 03-5524-1202

令和7年度活動概要

活動事業種別

実施内容

活動PR事業

機関誌発行、配布	機関誌企画委員会の記事の構成や特集などについて検討を行っている。令和7年7月(夏号)、11月(秋号)、令和8年3月(春号)を発行した。特集にイギリスの熱ネットワークの記事など海外の情報や、大阪・関西万博の施設見学記を掲載するなど、会員に興味を持っていただけるような記事をバランスよく掲載することに留意している。会員や外部(主として自治体)に配付し、情報発信の充実と新情報の提供に努めた。部数・配布先などは定期的に見直し、協会活動ツールとして積極的に活用している。
ホームページ活用	積極的なPRを行う上での協会情報発信の基盤と位置づけ、最新情報をタイムリーに掲載している。協会活動ツールとして積極的に活用。
メールマガジン	タイムリーに発信することを続けている。 a)協会の行事・事業に関する広報 b)理事会・委員会等からの会員への伝達事項 c)協会が共催・後援・協賛等を行った他団体の事業で広報要請を受けたもの d)主務官庁ほか行政機関から広報指示や要請を受けたもの
アニュアルレポート	協会の1年間の活動内容をパンフレット形式にとりまとめた。協会催事等機会あるごとに配布し、広報ツールとして活用する。

受託調査研究事業等

BCD・脱炭素化推進本委員会	本委員会は、地震等自然災害等への強靱化として業務継続地区(BCD)構築実現に向けて検討し、都市域における清掃工場等排熱利活用と自立分散型CGS設置によるエネルギー面的利用と電力マイクログリッド導入が、都市の脱炭素化とBCDに大きく貢献することが明らかになっている。しかしながら、その導入実現が期待されるが、技術、法制度、経済、事業面等の諸課題を有し、その課題解決並びに事業化と事業主体形成が大きな鍵となっている。本年度も、昨年度に引き続き、今日的視点を踏まえて、社会の要望に応えるべく、各地域特性等を考慮して、都市の脱炭素化と業務継続街区(BCD)形成の「まちづくりGX」実現のため、あるべき姿を提案し、その推進方策と事業実現等に資する検討を行った。
----------------	---

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| (1)BCD・カーボンハーフ推進委員会 | (2)BCD・脱炭素化推進委員会 |
| ① 中央区 BCD・カーボンハーフ推進委員会 | ⑤ 横浜市都心臨海部 BCD・脱炭素化推進委員会 |
| ② 港区 BCD・カーボンハーフ推進委員会 | ⑥ 大阪夢洲地区 BCD・脱炭素化推進委員会 |
| ③ 豊島区 BCD・カーボンハーフ推進委員会 | ⑦ 名古屋市中心部 BCD・脱炭素化推進委員会 |
| ④ 新宿区 BCD・カーボンハーフ推進委員会 | ⑧ 神戸三ノ宮駅周辺 BCD・脱炭素化推進委員会 |
| | ⑨ EXPO'25会場における新エネルギー等導入状況調査委員会 |

国土交通省からの受託調査事業	「エネルギー的面的利用の取組推進に向けた施策推進方策検討業務」を受託し、調査報告書をまとめた。 ㈱日建設総合研究所、日本環境技研㈱との共同受注。
----------------	---

海外関連活動

交流実績等	当協会が英語のホームページを開設したことも一つの契機となり、今年度も海外のエネルギー関係者と、当方からのプレゼンテーションや意見交換をする場が多く、今後の活動につながる動きも多々あった。 (1)7月3日~7月4日にタイのバンコクで開催された「Asia Urban Energy Assembly 2025」において、佐土原専務理事が日本の地域冷暖房について、プレゼンテーションを実施。東南アジア各国の地域冷暖房の現状と将来について、多くの知見を得た。 (2)英国のエネルギーコンサルタントが当協会を訪問。英国の地域冷暖房・熱のネットワークに関する知見を得、その後、当協会の機関誌第142号にも「英国(UK)における熱ネットワーク拡大に向けた取組み」と題して寄稿していただいた。 (3)2026年3月に、イタリアで開催された「MCE-Mostra Convegno Expo comfort」(HVAC等に関する国際的な展示会)の主催者のRX Italy幹部が当協会を訪問し、意見交換を行った。 (4)国連環境計画(United Nations Environment Programme)が進めている欧州における地域冷暖房のフィージビリティ・スタディとマスタープランの作成支援に関する打合せ・意見交換をWEBにて行った。 (5)米国のIDEA(International District Energy Association)とGLOBAL COOPERATION AGREEMENTのMOUの締結について、現在協議中である。
-------	---

当協会の主要活動内容



理事会



技術研修会



賀詞交歓会

① 協会機関誌「都市環境エネルギー」

当協会では、会員サービスの基盤として年3回の協会機関誌の発行を行っている。部数・配布先については継続的に見直しをしており、将来入会が見込まれる事業者に対して、PR用ツールとしても活用している。「脱炭素化」、「水素社会」、「スマートシティ」、「BCD」、「レジリエンス」、「SDGs」等々、読者に興味をもっていただけるタイムリーな記事の掲載を心がけている。

141号



- 巻頭言 都市のエネルギー利用における賢い熱の活用をめざして
三機工業㈱ 建築設備事業本部 設計本部 技術工務課 前川 幸一郎
- 特集 大手町・丸の内・有楽町地域におけるエネルギー的面的利用
丸の内熱供給(株) 開発技術部 常務執行役員 古田島 雄太
- 建設レポート
グランドグリーン大阪で実現するサステナビリティの取組み
㈱三菱地所設計 機械設備設計部 伊藤 光太郎 他7名
- 研究・技術最前線
温故創新の森 NOVARE 次世代まちづくりを見据えた多棟連携のエネルギーマネジメント
清水建設株式会社 設計本部 設備設計部2部 主任 重盛 光
- わが街づくり
始動する GX! 山梨から始まるグリーントランスフォーメーション
山梨県企業局 竹田 明浩
- 研究テーマ紹介 横浜国立大学大学院都市イノベーション学府・研究院 都市環境管理計画研究室
横浜国立大学都市イノベーション研究院 教授 吉田 聡

142号



- 巻頭言 半世紀の歩みと新たな挑戦 一次世代型地域エネルギーシステムの未来展望—
東京ガス株式会社 カタマ&ビジネスソリューション部 企画部長 吉田 範行
- 特集 持続可能なまちづくり~まちづくり GXの推進~
国土交通省都市局 市街地整備課
英国(UK)における熱ネットワーク拡大に向けた取組み
英国(UK)における冷房ネットワークの現状
Translating Energy Ltd. Dr. Joel Hamilton PhD Ms. Kavya Joshi
万博エネルギー関連施設見学記 協会事務局
第32回都市環境エネルギーシンポジウム開催報告 機関誌企画委員会
- 建設レポート
天神第2熱源センターの設備概要と導入プロセス
株式会社 福岡エネルギーサービス 事業推進部 木戸 真太郎、岩村 誠
- 研究テーマ紹介
熱源水ネットワークによる街区レベルの熱融通を考える
大阪公立大学大学院 工学研究科 教授 鍋島 美奈子

143号



- 巻頭言 都市環境・エネルギーにおけるポジティブインパクトを目指して
㈱日建設 取締役 常務執行役員 エンジニアリング部門統括 水出 喜太郎
- 特集 東南アジア各国の地域冷房の普及状況
(一社)都市環境エネルギー協会 専務理事 佐土原 聡
臨海副都心のカーボンニュートラルに向けた取り組み
~地域熱供給への水素混焼ボイラの稼働~
東京都港湾局 臨海開発部 開発整備課 中村 滋
- 研究・技術最前線
グランドグリーン大阪 「国家戦略特区による大規模帯水層蓄熱の紹介」
㈱三菱地所設計 機械設備設計部 伊藤 光太郎 他8名
- 新技術・新商品
水素混焼ボイラHydroMixの紹介
株式会社ヒラカフ 営業本部/マーケティング部 植田 文幸
- わが街づくり 秋田県の再生可能エネルギー
広報委員会+機関誌企画委員会
- 研究テーマ紹介
サステナブルな建築・都市の実現を目指して
東海大学 建築都市学部建築学科 教授 山川 智